


音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
		中医学生薬解説、参考・使用上の注意 および中医学以外の生薬解説・生薬学解説	
た一13	たくしゃ 沢瀉	甘・淡・寒 腎・膀胱	6~9g、煎服。
中医生薬解説			
 <p>サジオモダカの周皮を除いた塊茎</p>		<p>利水滲湿・泄熱 水湿停滞による尿量減少、水腫、泥状～水様便に、茯苓・猪苓などと用いる「四苓散」「五苓散」。挟熱の場合には、滑石・木通などと用いる「猪苓湯」。</p> <p>湿熱下注の排尿痛、排尿困難、尿の混濁などには、滑石・木通・車前子・山梔子などと用いる「五淋散」。</p>	
		<p>除痰飲 痰飲停留によるめまいに、白朮・茯苓・半夏などと用いる「沢瀉湯」「半夏白朮天麻湯」。</p> <p>その他 滲湿泄熱の効能により、滯水を除き虚火を泄し、陰虚火旺を鎮める補助となり、「腎火を瀉す」といわれ、腎陰虚に熟地黄・山薬・山茱萸などと用いる「六味地黄丸」。</p>	
		参考	<p>沢瀉は利水滲湿の効力は茯苓とほぼ同じであるが、泄熱に働き補益の効能を持たない。 沢瀉は有瀉無補、茯苓は有瀉有補」といわれる。</p>
		使用上の注意	<p>一般に塩炒した塩沢瀉（炒沢瀉）を用いる。 大量で滑精を引き起こし、久服すると腎陰を損傷するので、腎虚でも火熱の症候が見られないときや滑精があるときは、用いない方がよい。</p>
中医以外の生薬解説			
		神農本草経	<p>味甘寒、風寒濕痺、乳難を主どり、水を消し、五臓を養ひ、氣力を益し、肥健せしむるを主どる、久服すれば耳目聰明、饑えず、年を延べ身を軽くし面に光りを生じ、能く水上を行かしむ。 「方劑決定のコツ」の注釈 「乳難」とは、難産のこと。「水を消す」とは、腫みを消すこと。「耳目聰明」とは、耳がよく聞こえ、目がハッキリすること。「水上を行かしむ」とは、自由自在に水上を遊泳し得るとの意（方術説話による）。</p>
		薬徴	<p>主治、小便不利、冒眩なり、旁ら渴を治す。</p>
		新古方薬囊	<p>熱を去り燥きを潤すことをなす、故に刺激を緩和することを主どる、その主目證は、渴ありて水を欲するもの、冒眩あるもの、小便不利あるもの等なり。 「方劑決定のコツ」の注釈 説話に「内の内に行き、肌肉虚して熱すれば、胃中に則ち熱を生ず。」とあり、沢瀉の渴を治するのは、この理由に基づくものである。</p>